

第1回余部鉄橋撤去鋼材活用方策アイデアコンペ委員会

～ 議事概要 ～

- 1 日 時 平成 20 年 8 月 13 日(水)14:30～16:30
- 2 場 所 香美町 余部地区公民館
- 3 出席者 別紙のとおり
- 4 議事概要

(1)委員会設置の趣旨、設置要綱

- ・原案どおり、承認された。

(2)委員長の選任

- ・委員長：近畿大学 岡田准教授(要綱3条2項：委員互選)
- ・副委員長：京都大学 川崎教授(要綱3条4項：委員長指名)

(3)鋼材の活用事例等の紹介

- ・交通科学博物館の売れ筋ベスト10、JRで作成した記念品事例...杉木委員
- ・鉄加工の専門家からの意見...久保正司(要綱第3条6項による出席)

(4)アイデアコンペ

委員長まとめ

- ・今後の利活用では、歴史の凝縮が重要なキーワードになる。
- ・研究材料としても、時を隔てた鋼材として重要なものである。
- ・実現可能性は、審査の中で加味していく。
- ・地元意見は、専門審査員は地元の人を選定することから反映できると考える。
- ・研究目的の募集も、アイデアコンペを通して実施することになる。
- ・アイデアコンペであり、アイデアに重きをおいたコンペとする。

主な意見

募集及び審査方法

地元を人のアイデアとそれ以外の地域を人のアイデアは分けて評価すべき。

- ・香美町と一般公募とでは、余部鉄橋に対する思いが異なっている。
- ・地元と地元以外のアイデアとは、別の方法で審査してもらいたい。
- ・香美町の人とそれ以外の地域の人では余部鉄橋に対する思いが異なっており、アイデアを分ける必要があり、同列で評価することは難しいと思う。
- ・専門審査員は地元に近い人を選出する原案であるから、地元の意見は其中で反映できるだろう。

実現性の審査

実現可能性は審査の中で加味していく。

- ・ 実現性の審査にウエイトをかけるべき。実現性について踏み込んだ応募方法とすべきである。
- ・ 実現性のあるものを採択できるような応募条件(製作費用の制約)が必要だ。
- ・ 設計図がない中で、実現性の確認は、おおよその程度でしかできない。アイデアの面白みを重視した審査になるのではないか。
- ・ 実現性も見極めながら、当委員会で審査をすればよい。
- ・ 審査ではアイデアのおもしろさにウエイトをかけたいと思う。加えて、実現可能性についても検討する必要がある。

入賞作品がそのまま実現されるのではないため「活用に向けた」とするべき。

- ・ 必ずしも応募されたものが、そのまま実現されるものではないということを募集に際して伝えるべき。名称を「鋼材を活用する」ではなく、「鋼材の活用に向けたアイデアコンペ」と言うような表現が良いと思う。

委員を通じたアイデアの取り扱い

委員を通じた提案の取扱いについて、整理が必要である。

- ・ 鋼材の研究をしたいと研究・設計関係者から言われているが、このアイデアコンペを紹介していいのか？
- ・ 知人の大学の教員から、実験研究のために鋼材をぜひ提供して頂きたいとの申し出がすでにあり、研究部門での多くの希望が予測される。

以上